社会性を育み、読解力や表現力の向上を目指して

～北中城村立北中城小学校のNIEの取り組み～

北中城村立北中城小学校
教　諭　甲斐　崇

１　はじめに

北中城小学校では、２００８年度からＮＩＥ（Newspaper in Education）の実践指定校として認定を受け、６年生を中心に授業や日常活動に新聞を活用してきた。さらに２０１０年度から全国奨励枠の実践指定校に認定され、高学年から全学年への実践を進めつつある。本校の校内研のテーマであった「伝え合う力を高めるための工夫」にも重ねて実践を行ない、子どもたちに豊かな言語能力、読解力、表現力等をつけることを目的として活動を行ってきた。

２　NIEへの取り組みの方針

（１）過去２年間＜２００８年度・２００９年度＞の取り組みについて

２００８年度・２００９年度の実践にあたり、実態把握アンケートを実施したところ、新聞を購読していない家庭が２～３割いること、また新聞が子どもたちのふだんの生活に関わりがない実態が明らかになった。また、そのような状況で新聞を活用して授業を行なうことに、難しさや抵抗感を持つ子も見られた。そこで二年目以降は活用する前に、子どもたちにとっては縁遠く難しい新聞に慣れさせる必要があると考え、①新聞に慣れ親しむ活動、②新聞の活用に向けた活動、③新聞の教科領域等での活用、という流れで段階的に新聞に慣れ親しんでいくための活動を計画して行った。＜詳細は2009年度NIE実践報告書に掲載＞

（２）高学年での活用から全学年での活用へ

２００９年度の全国奨励枠での実践指定校の認定を受け、これまでの６年生での実践をもとにして、主に高学年（５・６年生）での新聞活用を進め、２０１１年度にはさらに全学年で進めていくことになった。高学年では、日常的な新聞活用を通して、①社会の出来事に興味関心を持つこと、②読む力をつけること、③記事の書き方をもとにした書く力、まとめる力をつけること、を目指した活動を行なうこととした。

（３）新聞の活用方法について

以下のような方法で新聞を活用したが、特に新聞の使い方や活用方法について限定せず、自由に使ってもよいことを共通確認した。

①新聞の構成、仕組みなど新聞そのものを学ぶ手立てとする。
②新聞記事をもとに国内、国外、地域など社会の出来事を知る手立てとする。
③学習内容に関連させたり、より深く調べたりする手立ての一つとする。
④各教科・領域等で行なう「新聞作り」「作文」等のお手本とする。
⑤記事をもとに社会のことを考え、それを自分のこととしてとらえさせる手立てとする。

（４）新聞の購読方法について

新聞の購読については、全国紙・県内紙の６紙が、それぞれ４ヶ月間配達されるという枠組みの中、学校行事や３学期制であること等を考慮しつつ、できるだけ分散して一年間新聞が継続して使えるようにすること、本校での新聞学習のピークである二学期に多めに割り振ることなどを念頭に工夫した。

新聞名	配達月											
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
朝日新聞		○				○	○	○				
毎日新聞			○				○	○			○	
読売新聞		○				○		○	○			
日経新聞			○		○				○	○		
沖縄タイムス			○	○			○				○	
琉球新報		○				○		○		○		

（５）新聞の取り扱いについて

２０１０年度までは、中心になって活用する学年の広場に新聞を保管し、必要な時に必要な学年が使うスタイルであった。当該学年にとっては使いやすかったが、他の学年や全体としては借りづらく、新聞が学校に毎日届いていることすら分からない状態であった。そのため２０１１年度からは、メディアセンターとしての図書館の機能を充実させる目的もふまえ、図書館前の広場にNIEコーナーを設置し、毎日配達される新聞を広げて閲覧できるように工夫した。また、展示が終わった新聞は、数日分は新聞掛に置き、それ以降は新聞の種類ごとにかごにまとめて保管するようにした。NIEコーナーには、こども新聞や子ども向けや教師向けのNIE関連資料も置いた。壁面には児童の作った新聞等も掲示し、子どもたちの興味関心を引き、児童や教師が自ら学習ができるコーナー作りに努めた。これらの活動は図書館司書の協力を得て行なうことができた。

また、新聞の取り扱いについては以下のようにした。

・全学年児童、教師が閲覧可能、来校した保護者も閲覧可能。
・かごにストックされている新聞は自由に教室に持ち込み、授業に活用してよい。
・必要な記事や写真は切り抜きも自由に行なってよい。ただし、原則として切り抜いた新聞は元に戻さない。
・NIEコーナーの新聞や作品の展示、管理は、図書館司書とNIE担当教師が行ない、必要に応じて委員会の児童がお手伝いする。

＜図書館前NIEコーナー＞

３　２０１０年度・２０１１年度のNIEの取り組みの概要

（１）各学年におけるNIEに関連する取り組みの実施

・２０１０年度の高学年での新聞活用、２０１１年度の全学年での新聞活用は以下の通り。

学年	教科	内容
１年	国語	・スクラップコンテストへの授業での取り組み ※アドバイザーとの TT 授業の実施
２年	国語 生活科	・新聞に慣れ親しむ活動「何て言っているんだろう」の実施 ・スクラップコンテストへの授業での取り組み ※アドバイザーとの TT 授業の実施
３年	国語 総合	・新聞に慣れ親しむ活動「記事をバラバラにしてみよう」等の実施 ・新聞をもとに、新聞の仕組みや特徴を学ぶ授業の実施 ※アドバイザーとの TT 授業の実施 ・総合的な学習の時間における地域学習のまとめとしての新聞づくり
４年	国語 社会 総合	・光村図書「新聞を作ろう」での新聞の学習 ・社会見学（浄水場など）で学習したことをまとめる見学新聞づくり ・読売ワークシート通信を活用した授業 ・スクラップコンテストへの授業での取り組み ※アドバイザーとの TT 授業の実施 ・総合的な学習の時間における福祉学習のまとめとしての新聞づくり
５年	国語 社会 総合	・新聞を学ぶ学習（段階的に新聞に慣れ親しむ活動） ・総合的な学習の時間における環境学習の調べ学習及び新聞づくり、切り抜き新聞づくり　・新聞スクラップを利用したスピーチの実施 ・宿泊学習など体験したことを伝える新聞づくり ・ファミリーフォーカス　・出前記者講座の実施 ・実際の新聞への挑戦（投稿、こども新聞）　・食料自給に関する授業 ・スクラップコンテストへの授業での取り組み ※アドバイザーとの TT 授業の実施
６年	国語 社会 総合 理科	・新聞を学ぶ学習（段階的に新聞に慣れ親しむ活動） ・総合的な学習の時間におけるキャリア教育（職業学習）の調べ学習及び新聞づくり、切り抜き新聞づくり ・光村「平和のとりでを守る」における新聞を活用した意見文の作成、学習のまとめとしての切り抜き新聞づくり ・ウチナーンチュ大会のイベントのまとめとしての切り抜き新聞づくり ・行事における作文づくり、新聞への投稿、実際の新聞への挑戦 ・一緒に読もう新聞コンクール、スクラップコンテスト、新聞感想文等のコンクールへの授業での取り組み ・理科「太陽と月の形」、「大地のつくりと変化」における新聞活用

（２）取り組みの実際

①学習のまとめとしての新聞づくり＜２０１０年・２０１１年＞

２０１０年度から５年生でも主に総合的な学習の時間を中心に、新聞を活用した授業を進めた。学習のまとめとしての新聞づくりにもっていくために、１学期はこれまで本校で行なってきた「何て言っているんだろう」「記事をバラバラにしよう」など段階的に新聞に慣れ親しむ活動から始めていった。２学期には国語の学習とも連動して出前記者講座なども行い、新聞づくりに向けての基礎力を高めた上で、国語科や環境学習でのまとめとしての新聞づくりに挑戦した。国語科での新聞づくりでは本物の新聞を参考にしつつ、「誰に」「何のために」伝えるのかという相手意識や目的意識をしっかり持たせ、宿泊学習や運動会など体験したことや、学校の自慢や問題点について、読み手のニーズも考えながら取材を行ない、記事の書き方を工夫し、コンピュータでまとめた。また、新聞を「作って終わり」にしないために、発信相手である４年生等に新聞をもとにした発表を行ない、その後新聞を読んでもらい感想を聞く場を設けた。昨年度作成した新聞は、スズキ教育ソフト「キューブ活用コンテスト」において『活用賞』を受賞することができた。

②新聞スクラップコンテストなどへの全学年での取り組み

２０１１年度は「一緒に読もう！新聞コンクール」などのコンテストにも学校として積極的に取り組んだ。「第１回新聞スクラップコンテスト」へは、全学年で取り組みを行なった。低学年は新聞に初めてふれる児童も多いことから、１年生は教師が選んだ写真を中心に記事の内容を読み取り感想を書かせることができた。２年生からは新聞をすべてめくりながら記事を探す時間をとり、簡単に新聞の仕組みにもふれながら、新聞の醍醐味を味わわせることができた。高学年ではお手本や模範作品を紹介しながらイメージを持たせ、記事の感想にとどまらず、自分の意見や提案を考えさせるなど、発達段階に応じた工夫を行なうことができた。コンテストには６５９点の作品を出品することができ、小学校では唯一『学校賞』を受賞し、５４名の入賞者を出すことができた。

＜１月 21 付沖縄タイムス・２月５日付新報りゅう PON に掲載された新聞スクラップの取り組み＞

（３）校内研修＜ワークショップ形式＞の実施、NIE 研修会への参加

校内で NIE の活動を進めるために、夏季校内研修において NIE に関するワークショップ形式の研修を行なった。NIE の意義に関する講話を聞き、新聞に慣れ親しむ活動を体験したことで、これまで新聞を活用した授業を経験したことのない先生方にも授業での活用イメージを持たせることができた。また、NIE に関する新聞社主催の教師向け研修会や NIE フォーラムでの授業参観・ワークショップにも積極的に参加してもらうことができた。

＜ワークショップの様子＞

４　成果と課題

（１）成果

・投稿、コンクールなどでの入選、学校賞、紙面での実践紹介などが対外的にも認知され、子どもたちと新聞、そして社会との距離が縮まった。学年の発達段階に応じた新聞スクラップへの取り組みも含め、学校全体として新聞活用の底上げを図ることができた。

・６年生は２年間継続して NIE の活動に取り組めたことで、コンテストへ多数入賞するなど、新聞にまとめたり、自分の考えを書き表したりすることが上手になった子が多くなった。

・新聞を活用する環境の充実により、全学年が新聞を活用しやすくなった。

（２）課題

・校務分掌、学校組織としての NIE の位置づけを図りたい。校長のリーダーシップも重要。

・新聞活用に向けた教員向けの研修の定例化、新聞に慣れ親しむ授業の確保が必要。また各教科における年間計画に新聞活用、新聞づくりについての関連づけが必要。→現在作成中